

令和 6 年 5 月 19 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01235

研究課題名（和文）金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Circulation of Religious Knowledge and the Formation of the Book Collection in Medieval Japan Based on a Survey of the Texts at the Kongoji Maniin Temple

研究代表者

海野 圭介（Unno, keisuke）

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：80346155

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,900,000円

研究成果の概要（和文）：書物の流通経路の追求により明らかにされる寺院と寺院、寺院と地域をめぐる知識の流通ネットワーク構造の分析と、そうした構造が生み出した書物それ自体の資料価値の探求と評価を目的として研究を行い、摩尼院所蔵典籍・文書類の全点の調査確認とその目録化を進め、金剛寺（本坊）の既調査資料データと接続することで、近世初頭頃までにおける金剛寺を中心とした南河内地域の寺院ネットワークと知識流通についての新たな知見を獲得することができた。また、国際協働により寺院文化圏に関する国際共同研究を推進した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

所蔵者や地域社会のみでは保存管理が難しい文化財を対象として、専門的知識を保有した研究者を導引し整理・調査を行うことを通じて地域の文化財の保全に努めた。また、地域社会に現在も残り、地域の文化的・宗教的拠点の一つでもある地域寺院の歴史的展開の解明と、そこで行われた数々の学的営みの実態を明らかにすることにより、地域社会及び一般社会の知的関心を満たし、当該地域においては、掘って立つべき歴史の把握を通して地域振興に寄与した。

研究成果の概要（英文）：We conducted research with the aim of analyzing the structure of the knowledge distribution network between temples and temples, and between temples and regions, as well as exploring and evaluating the value of the books themselves that were created by this structure, through the pursuit of book distribution routes. By connecting the data with the previously surveyed materials of Kongoji Temple (Honbo), we were able to obtain new knowledge about the temple network and knowledge distribution in the south kawachi area centering on Kongoji Temple up to the early modern period. In addition, international joint research on the temple cultural sphere was promoted through international collaboration.

研究分野：日本文学

キーワード：密教寺院 中世日本 蔵書 中世の知識 中世の学問

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

寺院の生み出した様々なテキストが中世の文芸や学問の基盤となっていたことはもはや疑いが無く、現在ではその相互交渉を通して流通する知識や学問のあり方を具体的に把握する試みもなされるようになってきている。そうした知識の交渉の上に例えば延慶本『平家物語』の成立基盤をめぐる議論などがなされているが、一方で中世寺院の知的活動、学問活動を通して生み出された経釈、説草、史伝、論草といった散文の数々や願文、表白、講式といった種々の韻文それ自体が中世の文芸そのものであったという認識も強くなってきている。

本研究は、直接的には「金剛寺聖教・文書類を基盤とした社寺ネットワークの解明とその蔵書史的研究」(15H03186、代表者：海野圭介(国文学研究資料館)、平成27～30年度)を受けて構想されているが、この本研究に前接する研究は、寺院間のネットワーク構造を作業仮説として立て、聖教(仏教儀礼や寺院の学問を通して作成された書物)類の奥書の検討を通してそのフレームワークを確立すること、また、収集された書物の検討を行い新たな評価を付与して学術資料として定位し、それを公開することを主たる目的として行われた。そうした検討によって明らかになったのは、現代的視点から見れば大阪府のはずれに位置する金剛寺の有した地理的特質(南都、京都と高野山の間中に位置する)であり、その利点をいかして蓄積された書物と知識の流通を支えた寺院のネットワークの形であった。金剛寺には、断簡類を含むと約1万点に数え上げられた聖教が伝えられ、それらに記された奥書の分析によって聖教の形成と知識と書物の流通の様相が知られたのであるが、なおも資料的な制約があり、具体的な把握が困難な部分やその構造が可視化されない部分も残された。

本研究で直接の調査対象とする摩尼院伝来資料はその欠を補うものであり、中世の学問と文芸を生み出した寺院ネットワークの構造への認識を新たにする資料を含んでいる。本研究では、書物の贈与や書写、またその伝授を通して流通する知識のネットワーク構造の解明、つまりは、具体的な時と場と人物と書物のマッピングという基盤となるデータの作成を通して、その歴史的意義や社会的機能を探求することを核心的な問いとするが、こうした問いかけは冒頭に記したような知識のネットワーク構造の生み出す中世の文芸と学問への新たな認識を生み出すものともなることが期待される。

### 2. 研究の目的

本研究は、金剛寺とその塔頭摩尼院という他に類のない資料群を対象に、摩尼院伝来資料のデータ化を通して書物の流通(つまりは知識の流通)の構造を把握し、中世寺院ネットワークの構造把握を行い、その知的ネットワークと中世の文芸と学問との関連に関する知見を深化させることを目的とする。また、こうした視点と成果とを国際的な研究環境に開く視座を提示することも研究の進展によって重要と考える。本研究に前接する科研費研究においては、成果の発信と領域横断的研究展開を目指して中国人民大学、ハンブルク大学等の大学と連携した国際会議を企画し、ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)国際研究集会等の国際学会で研究報告を行うことを通して、中国、米国、英国、独国、カナダ、韓国等々の研究者と討議と協働による研究推進を行った。こうした多国間にわたる共同研究は国内におけるミクロ的視点を重視する研究の欠を補うためにも、また、そうした研究活動を仏教それ自体が有する汎アジア的性格を前提としたマクロ的視点から評価し意義付けるためにも不可欠と言える。本研究においても欧州、米国の研究者と協働して研究を推進することを実施上の目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究においては、前接する科研費研究が構築した基盤的データの完成を受けて、下記の3点を大きなテーマとして掲げ、書物の流通経路の追求により明らかにされる寺院と寺院、寺院と地域をめぐる知識の流通ネットワーク構造の分析と、そうした構造が生み出した書物それ自体の資料価値の探求と評価、及びその公開を行う。

#### 1) 摩尼院所蔵典籍・文書類の目録化及びその蔵書史的記述

摩尼院に伝領される書物の悉皆調査を行い、その目録化と書物の奥書類及び一部の文書類を資料として摩尼院をめぐる書物の流動の歴史の記述を試みる。

#### 2) 南河内地域の寺院ネットワークと知識流通の解明

従来の調査によって見えてきた学問寺院としての金剛寺にとって重要な意味を持つ典籍群のうち、摩尼院伝来資料を併せ見ることで新たな視界が開ける可能性を有する資料群を重点的に検討し、平安時代末から室町時代にわたる南河内地域の寺院における知識の流通構造の解明を目指す。

#### 3) 摩尼院及び金剛寺聖教の調査と研究を起点とした寺院文化圏に関する国際共同研究

「寺院」や「経蔵」を対象とした調査により見出された大量の典籍・文書存在により、前近代日本の文化的活動に対する理解が変わりつつある。こうした新しい動向に欧州、北米、中国などの研究者も敏感に反応している。研究活動の国際化と研究視角の多様化に伴い、寺院文化圏を対象とした研究も在外研究者との協働による成果が従来以上に期待されるようになってきてい

る。本研究においても成果を国際的に問うための協働と成果報告を行う。

#### 4. 研究成果

本研究により得た成果について、上記研究方法の区分に従って概要を略記する。

##### 1) 摩尼院所蔵典籍・文書類の目録化及びその蔵書史的記述

本研究の初年度に、摩尼院の経蔵に保管されていた資料群をクリーニングの上アーカイバルボックスへ移し、総函数を確認した上で具体的な調査に取りかかった直後に新型コロナウイルス感染症の世界的流行により外出制限が出されるようになった。本研究においても、研究分担者・協力者と調査先である金剛寺においてお世話いただく様々な方々の安全確保を第一とし、調査の休止を余儀なくされたが、デジタルデータの先行取得等の方法により、遅れを取り戻していった。一部に改めての詳細データ取得が望ましい資料を遺すものの、最終年度までに全体の把握が終了した。

調査資料の中からは、金剛寺(本坊)に所蔵される典籍類には含まれていなかった各種法会の次第書(主として江戸時代の書写)とともに、既に重要文化財に指定されている金剛寺蔵『遊仙窟』(元亨元年(1321)写)の欠脱していた中間部分や従来密教の異端とされてきたが現在再検討が進んでいる流派の中世期書写の儀軌類等が出現し、金剛寺の信仰と学問の歴史に新たな側面を加えるものとなった。調査し得た資料についてはこの2点を中心に摩尼院所蔵の典籍類についての個別の紹介は行ったが、今後は関連資料の内容の読解を進め、全容の公開へと進みたい。

##### 2) 南河内地域の寺院ネットワークと知識流通の解明

摩尼院蔵書の整理により、金剛寺(本坊)に所蔵される聖教に含まれず、具体的な資料に即した検討が難しかった、中世後期以降の収書の実態が把握され、それに伴い金剛寺を核とする寺院ネットワークに新たな観点が見出された。具体的には、南河内出身の高僧で新安祥寺流の祖である浄厳(1639-1702)とその甥で浄厳の法脈を継ぎ、『礪石集』『観音冥応集』といった仏教説話集を編纂した蓮体(1663-1726)との関わりを持つ書籍が見出されたことである。浄厳、蓮体に関わる書籍は、現在も延命寺(河内長野市)、地蔵寺(同)に伝来しているが、金剛寺との間にも交渉があったことが確認された。また、中世以前に遡る書籍では、異端とされた流派の書籍が見出されたことにより、その奥書の読み解きと伝本の調査により河内地域における伝流が確認された。金剛寺との具体的な関係性は判然としない部分を残すが、この例も河内地域における新たなネットワークの発見と言える。なお、これらの成果の一部を含む、金剛寺聖教に見える知的ネットワークについては、2024年度に全国規模の学会のシンポジウムにおいて研究報告を行うことが確定している。

##### 3) 摩尼院及び金剛寺聖教の調査と研究を起点とした寺院文化圏に関する国際共同研究

日本国外における周辺領域を含む広義の日本仏教史・仏教学研究は、従来は宗門毎の思想や歴史を問うものが多かったが、近年はそうした視点を超えて、文学や美術としても展開する日本仏教とその残した文化構造の立体的把握を目指す研究も積極的に進められている。また、国内においては東アジア地域との交渉の歴史を捨象して行われた研究状況への反省からも、国際的な共同研究の遂行が求められている。そうした現状を踏まえ、本研究では、カリフォルニア大学バークレー校(USA)、ヘント大学(ベルギー)所属の研究者との協働のもと計2件の研究報告及び討議を行った。具体的には、2023年3月にカリフォルニア大学バークレー校で開催された SACRED SECRETS: NETWORKS OF SECRET KNOWLEDGE IN JAPANESE RELIGIONS と題されたシンポジウムで研究報告(招待)と討議を行い、このシンポジウムでも同じく研究報告を行った研究者の所属するヘント大学を会場に同年8月に行われた The 17th European Association for Japanese Studies(EAJS) International Conference 2023 に接続して行われた Religious Space: Power, Worship, and Image in Medieval Japan と題されたワークショップの場でも討議を進めた。また、ロンドン大学 SOAS(英国)所属の研究者に研究資源を提供して意見交換を行い、研究の方向性の調整を行うなどの積極的な連携による研究展開も行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 海野圭介	4. 巻 4
2. 論文標題 安住院・善通寺等蔵伝後醍醐天皇筆『新浜木綿和歌集』断簡の考察 古筆切の紹介と撰者良宋の伝、熊野社・『浜木綿和歌集』との関係をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 寺院文献資料学の新展開	6. 最初と最後の頁 29-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海野圭介	4. 巻 -
2. 論文標題 立川流『阿字観』とその伝本	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近本謙介編『ことば・ほとけ・図像の交響』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 381-406
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Unno Keisuke	4. 巻 -
2. 論文標題 Kokin Kanjo: Rituals and Conceptualizations	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Rituals of Initiation and Consecration in Premodern Japan	6. 最初と最後の頁 409-420
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海野圭介	4. 巻 261
2. 論文標題 テキスト、パラテキスト、秘儀伝受 テキストを所有するとはどのような行為なのか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 46 - 58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海野圭介	4. 巻 5
2. 論文標題 金剛王院流実賢方瑜祇灌頂印信について 善通寺蔵『金剛王院 実賢勝尊道円相承』『醍醐方金剛王院流 勝尊相承』を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 寺院文献資料学の新展開	6. 最初と最後の頁 81-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木浩	4. 巻 240
2. 論文標題 慧遠・謝靈運の位置付け 源隆国『安養集』の戦略をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 六朝文化と日本 (アジア遊学)	6. 最初と最後の頁 129-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇都宮啓吾	4. 巻 39
2. 論文標題 中世語彙研究の一視点 聖教研究を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語語彙史の研究	6. 最初と最後の頁 47-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 17
2. 論文標題 清水寺縁起の展開 東大寺図書館蔵『如意鈔』における五祖影像供養唱導をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本仏教総合研究	6. 最初と最後の頁 29-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近本謙介	4. 巻 3
2. 論文標題 春日信仰をめぐるアーカイヴス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 HERITEX	6. 最初と最後の頁 240-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 海野圭介
2. 発表標題 Secret Teaching on Waka poetry and Esoteric Meditation Methods
3. 学会等名 Sacred Secrets: Networks of Secret Knowledge in Japanese Religions (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 海野圭介
2. 発表標題 安住院・善通寺等蔵『新浜木綿和歌集』断簡について 撰者良宋の伝、熊野社・『浜木綿和歌集』との関係など
3. 学会等名 シンポジウム「知られざる古筆・断簡と寺院経蔵 瓶井山禅光寺安住院」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤昭雄
2. 発表標題 日本に残る中国典籍 (特邀学術講演)
3. 学会等名 中日古典学工作坊 (北京大学中文系人文学苑) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 経典から法会・芸能へ 日本における『維摩経』の享受と展開
3. 学会等名 中日学会議「中国古文献の投影と展開 日本古典文学研究の新地平」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 アジア交流史の視座に基づく聖徳太子信仰の古代と中世
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会(EACJS) 第四回国際学会大会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chikamoto Kensuke
2. 発表標題 The Precepts and the Prince: Interpreting the Documents Sealed within the Sedgwick Sculpture of Prince Shotoku at Age Two
3. 学会等名 ハーバード美術館国際研究フォーラム「PRINCE SHOTOKU: THE SECRETS WITHIN」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近本謙介
2. 発表標題 北京・南都における律の展開と交差をめぐる史料と言説
3. 学会等名 説話文学会(2019年度大会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 海野圭介
2. 発表標題 テキストを所有するとはどのような行為なのか? : テキスト、パラテキスト、秘儀伝受
3. 学会等名 オンラインワークショップ「テキスト遺産の利用と再創造 日本古典文学における所有性、作者性、真正性」(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒木 浩  (Araki Hiroshi)  (60193075)	国際日本文化研究センター・研究部・教授   (64302)	
研究分担者	近本 謙介  (Chikamoto Kensuke)  (90278870)	名古屋大学・人文学研究科・教授   (13901)	
研究分担者	箕浦 尚美  (Minoura Naomi)  (70449362)	同朋大学・文学部・准教授   (33911)	
研究分担者	上杉 智英  (Uesugi Tomohusa)  (50551884)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部美術室・研究員   (84301)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	向村 九音  (Sakimura Chikane)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	University of California, Berkeley			
ベルギー	Ghent University			
英国	University of London			